©英語多読教育研究会

ワールドカフェ

□所要時間	授業外での準備に 2 週間程度、授業内でのディスカッションは 90 分
□主なスキル	リーディング、ディスカッションを英語で行うならライティング、リスニング。他者の意見を聞く力
□形式	4 ～ 5 人のグループ活動。グループを移動する際に多様性が生まれるため、クラスの人数が 20 人以上のほうが望ましい。

□概要とねらい

ワールドカフェとは、カフェで気兼ねなく行われるオープンな議論を、教室や会議室で再現することを目指したグループディスカッションの一方式です。ワールドカフェという用語は、Brown, Isaacs & the World Café Community が 1995 年に初めて使用して以来世界的に普及し、近年は、日本でも企業や NPO による問題解決型ワークショップなどに使用されているようです。 ワールドカフェの 7 つの基本原則は、以下の通りです。

1) set the context
2) create hospitable space
3) explore questions that matter
4) encourage everyone's contribution
5) cross-pollinate & connect diverse perspectives
6) listen together for patterns, insights, & deeper questions
7) harvest & share collective discoveries

(Brown, Isaacs & the World Café Community, 2005, p. 40)

特に注目すべきなのは、2) 誰もが自由に意見を言えるようなリラックスした雰囲気づくり、5) ミツバチが他花受粉するように、多様な意見、考え方と交わること、7) その結果、得られた「知の集積」から革新的なアイディアを生成することでしょう。ワールドカフェが従来のグループディスカッションと異なるのは、これらを可能にするため、10～20 分ごとにグループを移動し、異なる参加者、異なる意見と出会う機会を増やす点、各グループには記録用の模造紙が配られ、そこに書き込みをしながら議論する点です。

アクティブラーニング流行りの昨今、猫も杓子もグループディスカッションとなりがちですが、ただ受講者をグループに分けて話し合えと指示するだけでは、建設的、創造的な議論は生まれません。ワールドカフェは、グループを島に、参加者をその島々を巡る旅人に見立てます。まさに複数の島が点在する世界を旅して、多様な意見に出会うことで、参加者ひとりひとりが自分の考えを深める、あるいは新しい知見に目を啓かれることを目指すのです。さらに、行く先々には模造紙があり、そこに自分の考えを記録して残します。後からそのグループ＝島を訪れた人は、模造紙に残されたメモを見ることで、さっきまでそこにいた人と意見を共有することができるわけです。こうしたちょっとした工夫が絶大な効果を生むことについては、備考欄に記した先行研究をぜひご参照ください。私

は多読授業にワールドカフェを取り入れていますが、毎年「またやりたい」「もっとやりたい」といったコメントを学生からもらいます。最も人気のあるアクティビティです。

また、ワールドカフェには、読書経験の浅い学生が、経験豊富な学生の意見を聞くことで新たな読みの可能性を学べる、発言が苦手な学生は、模造紙への書き込みという形での参加が可能である、グループが固定しないので、議論が活性化するグループとしないグループの差が生まれづらい、書くことでアイディアが可視化され共有しやすくなることといった利点もあります。

参考文献： Brown, J., Isaacs, D., & World Café Community. (2005) *The world café: Shaping our futures through conversations that matter.* San Francisco, CA: Bernett-Koehler.

事前準備（必要な教材、器具など）

模造紙、箱入りカラーマーカーのセットをグループの数だけ用意します。例えば 20 人クラスなら、4 人ずつ 5 グループつくるので、模造紙 5 枚、カラーマーカー5 セットが必要です。

教材は 1 人で読んだだけでは充分に理解できないような本、深読みしたくなるような本、結末がオープンエンドになっており、読者によって多様な解釈が生まれるような本が適しています。ポストモダン絵本やポストモダンの短編小説などがお薦めです。これまで使用してうまくいった作品は以下の通り。使用方法の詳細や参加者の反応については、備考欄の参考文献を参照してください

英語絵本：Anthony Browne, *Voices in the Park*

Shel Silverstein, *The Missing Piece*

短編小説：Raymond Carver, “A Small, Good Thing,”

Haruki Murakami, “Super-Frog Saves Tokyo,” “Kino”

Tim O’Brien, “On the Rainy River”

J. D. Salinger, “A Perfect Day for Bananafish”

手順

1. 各自で指定された教材を読む。宿題にしておくか、短い作品なら授業中にペアで音読させてもよい。（15〜20 分）
2. ワールドカフェの目的、手順の説明 (5 分)
3. グループづくり(5 分)：4〜5 人で最初のグループ（ホーム）を作る。模造紙を各グループのテーブルに広げる。各グループのホスト役を決める。ホストは移動せずホームに留まる。
4. 第 1 ラウンド (10〜15 分)：模造紙の中央に、ディスカッションのテーマである教材のタイトルを書き、ディスカッション開始。各自の感想、読後感を語り合いながら、キーワードや印象に残った意見をカラーマーカーで模造紙に記入していく。絵や記

号を用いてもよい。（下記の写真参照）

5. 第 2 ラウンド（10 分）：ホスト以外は、グループを移動。メンバーが重ならないよう注意しながら、好きなテーブルに移動する。ホストはつなぎ役として、第 1 ラウンドでの議論を新しいメンバー（旅人）に紹介。新メンバーは、先のグループで収集したアイディアと、移動先の模造紙に書かれたアイディアを結びつけながら、異なるメンバーと意見交換を行い、新たなアイディアを模造紙に加えていく。
6. 第 3、4 ラウンド（各 10 分）：第 2 ラウンドと同じ手順を繰り返す。
7. 最初のグループ（ホーム）に戻り、旅から収集したアイディアを共有する。目の前の模造紙には、自分たちを含め多くの参加者の「知の集積」が形成されており、そこにさらに書き加えてもよい。（10 分）
8. 振り返り（5〜10 分）：各参加者が、蓄積したアイディアを元に指定教材についてのブックレポート作成。時間がなければ、宿題とする。
9. 教師からのフィードバック。（5 分）

【学生の反応】

- 自分から発信する事で自信を持てるようになった。
- 自分とは全く違う解釈をしている人がいて、面白かったと同時に視野が広がった。
- ある本に対する他者の視点に触れられるという点でかなり有意義な物だったと感じる。一点欲を言うなら、World Cafe の時間がもう少し欲しかった。→意見を得た上で後から 1 人で考察し直してみると、全く異なる意見や感情が自分からわいてくるのでそれを再度共有しつつ洗練された他者の意見にも触れたい。
- 模造紙に思いついた事をどんどん書いて解釈を深めていくという形式が斬新で面白かった。
- 色々な人の考えを聞く事が出来て面白かったし、そこからピックアップして自分なりの結論を出せるとすっきりする。
- 1 人で読むだけでは理解が深まらなかったが、人と意見交換をする事で理解が深まった。
- 自分では分からなかった隠された内容についての考察を聞けて楽しかった。
- 自分や他の人の意見が文字となって残るので、テーブルを回るたびに新しい視点にふれる事が出来、それにともなって自分の考えも深まっていくような体験をしたのは初めてだった。
- 一つの作品について、多くの人と共有した認識を持ったり、逆に全く異なる視点を味わえるのはとても面白かった。

【その他備考】

➢ この活動については、以下の先行研究をご参照ください。

Fukaya, M. (2015). The use of a literary text in an extensive reading programme: Reading Murakami's "Super-frog saves Tokyo" in the World Café. In M. Teranishi, Y. Saito, & K. Wales (Eds.), *Literature and language learning in the EFL classroom* (pp. 260-279). London: Palgrave Macmillan.

Kobayashi, M., Fukaya, M., & Kusanagi, Y. (2018). Using the World Café to increase motivation for extensive reading: A cooperative and constructive book discussion. *Bulletin of Seikei University, 50*(6), 1–18.

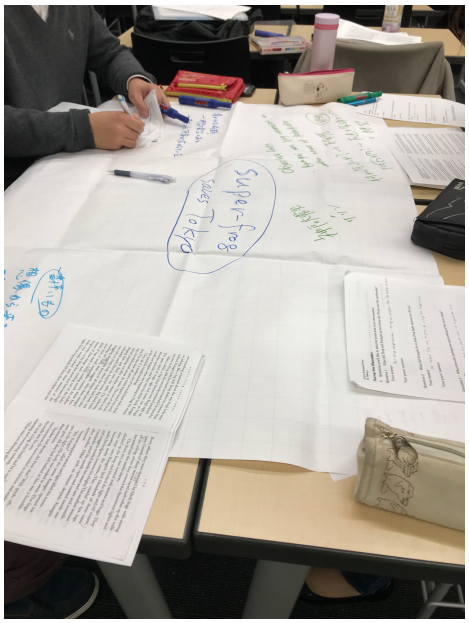
Kusanagi,Y., Fukaya, M., & Kobayashi, M. (2018). Creative and meaningful classroom activities to foster a reading community. *The 4th World Congress on Extensive Reading Proceedings,* 162-170. Retrieved from http://jalt-publications.org/content/index.php/jer/article/view/88

深谷素子 (2019).「大学生の読書意欲を高める英語読書指導---読書離れ対策としての英語多読授業の可能性を探る」『英文學研究　支部統合号』Vol. XI, 61-73.

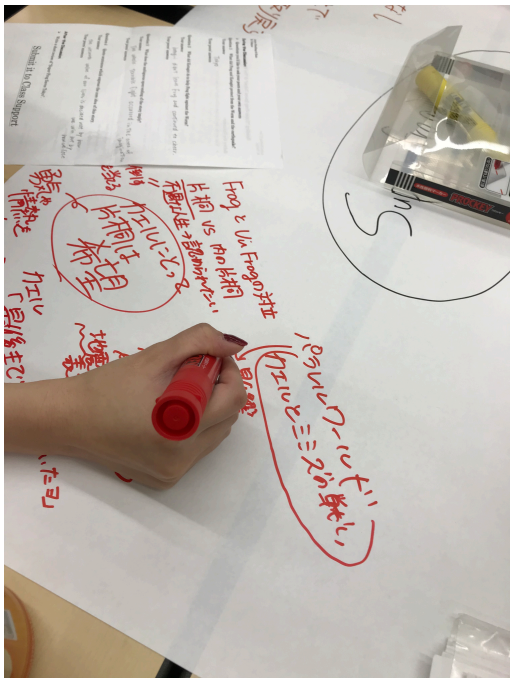
草薙優加・深谷素子・小林めぐみ (2019).「ワールドカフェ式ディスカッションの分析: 書き込み記録から見えてくること」*JAILA Journal* 第 5 号, 39-50. Retrieved from http://jaila.org/journal/articles/vol005_2019/j005_2019_039_a.pdf

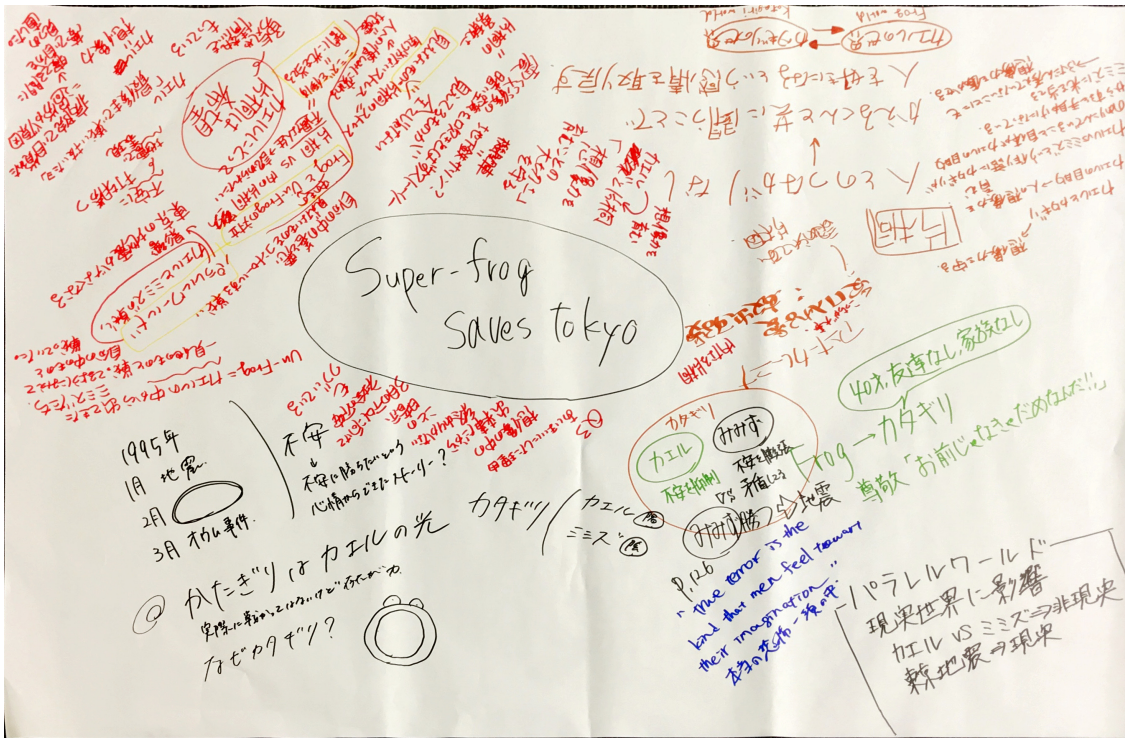
➢ 本稿の一部は、「"World Café"による教育現場での読書体験の共有」、深谷素子・草薙優加・小林めぐみ共著、『第 87 回大会 Proceedings』（日本英文学会）145-146 頁、2015 年）に加筆修正を加えたものです。

【ワールドカフェにて、模造紙への書き込みの様子と模造紙作品】



©英語多読教育研究会





（文責：深谷素子）